令和 7 年度（2025 年度）事業報告

１．公益目的事業の実施状況

当会の公益目的事業は、「観賞用花木等の収集保存、育種、栽培、利用の研究、情報の収集と提供及び普及啓蒙等の事業」です。令和 7 年（2025 年）4 月 1 日から令和 8 年（2026 年）3 月 31 日までに実施した事業について、下記のとおりご報告致します。潤いのある地域環境づくりに向けて、一般市民や行政の方々と共に桜の名所づくりや花のまちづくりなどの事業を展開致しました。

（１）桜苗木の生産・配布による桜の名所づくりや桜苗木の受託生産と育苗、花や緑を活かした花のまちづくりなどの推進

1）桜の名所づくり

～桜苗木の生産と配布～

当会は、病気に強く育てやすい品種の苗木生産と提供を通じて、桜の名所づくりを支援しており、これまでに累計 260 万本以上の桜苗木を出荷しています。単に苗木を提供するだけでなく、植栽地の気候・土壌や住民のニーズに合った品種の選定、植栽・管理方法に関する助言、植栽後のフォローなども行っています。

令和 7 年度においては、自治体や各種団体などからの依頼を受け、合計で 9,397 本の桜苗木を出荷しました。新しい名所の開拓から既存の名所の維持・保全へニーズが変化し、苗木も新規から植替主体となっており、ピーク時に比べ出荷本数は減少していますが、引き続き自治体や地域住民と一体となって、桜の名所づくりを支援してまいります。

～さくらコンシェルジュ～

地域住民団体等の「自分たちで植栽した桜を健全に育てて新しい名所にしたい」、「既存の桜名所を後世に伝えたい」といった要望に応えるため、当会研究員を現地へ派遣しています。

令和 7 年度は、千葉県鋸南町において同町の花いっぱい運動の一環として、住民と桜の植栽管理に対する活動計画を策定し、技術的な支援・指導や講習会を実施しました。

～桜を通じた災害復興支援～

災害復興支援として、これまでに 7,000 本以上の桜の苗木を無償で提供してお

り、今後も継続していきます。当初は東日本大震災の被災地における津波被害を受けた桜の後継樹育成などが中心でしたが、令和元年度以降は支援対象を自然災害全般に拡大しています。

令和 7 年度においては、宮城県女川町での桜の植樹指導や石川県輪島市への桜苗木の無償配布ならびに育成指導などを実施しました。

2）桜苗木の受託生産と育苗

地方自治体等からの委託で、その地域に由来のある桜の苗木を接木により生産・育苗し、国土緑化を推進しています。

令和 7 年度においては、淡路島国営明石海峡公園（兵庫県淡路市）、国立遺伝学研究所（静岡県三島市）、国立研究開発法人森林総合研究所 多摩森林科学園（東京都八王子市）などからの委託を受け接木を実施しており、令和 8 年度に出荷を予定しています。住民が親しみを感じている桜の苗木を育て、植栽し後世に残すことにより、地域住民に愛される桜の名所づくりに引き続き貢献していきます。

3）花のまちづくり

花や緑を活かした地域環境づくりの委託を地方自治体から受け、計画立案や住民への植栽指導および保全管理などを行い地域の環境づくりへの提言をしています。

令和 7 年度においては、山口県上関町から「花咲く海の町・上関」推進委託事業を継続して受託しています。地産地消花苗配布事業の企画・運営、地域住民や町職員等を対象とした花壇作りの現地指導、地元保育園に対する花育授業や地域住民に対する花の寄せ植え講習会を実施するとともに、花の利用に焦点を当てた「ハーバリウムづくり体験講座」や同町の城山歴史公園桜まつり会場でのボトルフラワー作りや桜ガイドツアーを行いました。

静岡県熱海市では、地域住民によるボランティア団体への花植え現地指導を継続するとともに、市内梅園のリニューアル設計業務に携わっています。

また、令和 9 年 3 月から横浜市において開催される国際園芸博覧会 ”GREEN x EXPO 2007”において、当会は花のまちづくりをテーマとして出展を行います。令和 7 年度においては、展示計画の立案ならびに展示用の花木の育成などを実施しています。

（2）桜の名所づくりや花のまちづくりに関する講師派遣や講座・シンポジウム等の開催

1）講師派遣

地方自治体等が開催する桜の植栽・保全管理等に関する講習会や花のまちづくりに関する講習会に当会職員を講師として派遣し、花のまちづくりの普及啓発を図ります。令和 7 年度は、自治体や各種団体等からの要請に応じて、下記のとおり各地で活動を行いました。

・千葉県柏市（4 月）、茨城県水戸市（4 月）： 桜の品種調査
・埼玉県熊谷市（9 月、3 月）、東京都足立区（3 月）： 接木講習会
・東京都足立区（3 月）： 舎人公園での桜ガイド
・埼玉県坂戸市（8 月）、栃木県栃木市（8 月）： 桜の植栽指導
・北海道釧路市（7 月）： 桜守技術向上講習　など

2）桜の保全・管理に関する普及啓発

～サクラ保全管理講座の開催～

全国の樹木医や桜の保全・管理を行っている住民団体などを対象に、毎年「サクラ保全管理講座」を開催し、桜の保全・管理方法、病害虫対策、桜に関する文化的・社会的知識などを提供しています。

令和 7 年度は、11 月 20 日に大阪市の国民會舘において、下記 3 つのテーマで開催し、ライブ配信の受講者を含め 169 名の方々に聴講いただきました。

テーマ	講師
野生動物の行動から学ぶ獣害対策	麻布大学 生命・環境科学部 教授　江口 祐輔 氏
食べる桜　今昔　～享保 2 年に生まれた桜餅は、21 世紀に桜スイーツに発展した～	山眞産業(株)花びら舎 代表取締役　平出 眞 氏
百桜繚乱 ～サクラの園芸品種の魅力と活用～	(一社)日本樹木医会 兵庫県支部 樹木医　藤原 隆之 氏

～全国さくらシンポジウムの開催～

桜の名所を守る住民活動の事例発表や桜に関する講演・研究発表および現地見学会などを実施し、行政・市民・企業などが一体となって桜の名所を育てる機運を醸成します。

令和 7 年度は、「2025 全国さくらシンポジウム in 恵那」を、4 月 4 日・5 日に岐阜県恵那市において開催しました。実施内容は下記のとおりです。

4 月 4 日：シンポジウム（聴講者：約 500 名）

内容	講師・出演者
記念講演 「三好学と関連資料」	岐阜大学応用生物科学部准教授 石田仁 氏 （植物学者である三好学の曾孫）

パネルディスカッション 「未来につなぐ恵那のさくら」	恵那市観光協会 岩村支部長 渡曾充晃 氏 幸園 田中訓 氏（恵那峡の桜管理者） 恵那市観光協会 恵那峡支部 樋口舞 氏 木曽川上流ダム総合管理所長 犬童眞二 氏

4 月 5 日：現地見学会（参加者：79 名）
市内の恵那峡湖畔桜並木、東野・阿木川ダムの桜並木など

令和 8 年度は 4 月 2 日・3 日に千葉県八千代市において開催し、令和 9 年度は栃木県さくら市において開催する予定です。

～学び舎の桜プロジェクト … 桜を知ろう、守ろう、救おう～

各地の小学校にある衰弱した桜を児童やＰＴＡ及び地域住民と当会が一緒になって樹勢回復などの作業を進め、桜に対する関心を深めてもらい、地域で桜を守る活動を支援しています。当会の桜の名所づくりアドバイザーの協力も得ながら、接木や桜授業等、地域特性に応じた活動内容を心掛けて、支援を継続しています。

令和 7 年度は、前年度に引き続き福井市立春山小学校において、校庭の’染井吉野’を守る活動を指導し、また、江戸川区立下鎌田小学校・下鎌田西小学校においては、両校の統廃合に伴う新校舎完成にあたり、3 年間児童が育てた桜 5 本の植樹を実施しました。

3）花のまちづくり運動の普及啓発

～全国花のまちづくりコンクールの実施～

花のまちづくりコンクール推進協議会（当会は事務局を担当）の主催で花を活かした生き生きとしたまちづくりの普及拡大を目指して開催します。審査委員は園芸・造園・都市計画等を専門とする大学教授等で構成しています。大賞の農林水産大臣賞、国土交通大臣賞のほか、優秀賞、奨励賞、入選、努力賞などを選出し、優秀な応募者を表彰し激励します。

本コンクールは、平成 2 年に開催された「国際花と緑の博覧会」の基本理念“自然と人間との共生”を継承・発展させる事業として、平成 3 年から実施しており、現在は（公財）国際花と緑の博覧会記念協会、（公財）都市緑化機構、全国花みどり協会ならびに当会で「花のまちづくりコンクール推進協議会」を構成し、運営しています。

第 35 回目となる令和 7 年度のコンクールは、例年どおり 4 月に募集を開始、7 月から 9 月にかけて第 1 次審査、現地審査、第 2 次（最終）審査を行い、10 月に受賞者を公表、12 月に表彰式を開催しました。主な受賞者は下記のとおりです。

大賞	受賞者
農林水産大臣賞（2 件）	浦戸諸島「海と花の物語」
	佐々木 裕哲
国土交通大臣賞（2 件）	射水市
	名塩さくら台景観緑化クラブ
文部科学大臣賞（1 件）	伊奈町立小針北小学校

上記に加え、優秀賞 11 件、奨励賞 6 件、入選 57 件を選出。また、当コンクールにおいて入賞が規定回数に達した団体・個人には、継続的な活動を称え特別賞を授与しており、当年度は初めて、入賞回数が 15 回に達したプラチナ賞を授与しました。（受賞者：鶉野中町花家族の会）

～全国花のまちづくり地方大会～

地方での花のまちづくりの普及拡大を目的に、花のまちづくりコンクール推進協議会と地方自治体との共催で開催します。全国花のまちづくりコンクールで大賞を受賞した団体の活動事例発表、園芸・ガーデニング関係の著名人によるパネルディスカッション、現地見学会などを実施しています。本大会は全国花のまちづくりコンクールの関連イベントであり、当会は実行委員会メンバーとして運営に参画しています。

令和 7 年度は、「第 31 回全国花のまちづくり牧之原大会」を、5 月 31 日、6 月 1 日に静岡県牧之原市で開催しました。実施内容は以下のとおりです。

5 月 31 日：シンポジウム（聴講者：448 名）

内容	講師・出演者
先進事例発表	特定非営利法人田原菜の花エコネットワーク（第 34 回全国花のまちづくりコンクール農林水産大臣賞受賞者）
事例発表・トークディスカッション	牧之原市花の会、萩間小学校、川崎地区絆づくり、勝間田絆づくり
スペシャルトークショー	園芸研究家 矢澤秀成 氏 園芸デザイナー 三上真史 氏

6 月 1 日：現地見学会（参加者：52 名）

市内の秋葉公園、萩間小学校、せせらぎガーデン、いろ葉の庭、ガーベラ生産者の栽培ハウスなど

令和 8 年度は、6 月 27 日・28 日の両日、北海道恵庭市において開催します。

～こまつの杜での花育～

石川県小松市にある「こまつの杜」において、当会研究員がコマツのＯＢ/ＯＧ、社員などと共に、地元の幼稚園やこども園の園児を対象に、種まきから鉢上

げ、花壇づくりなどの花育を実施しています。また、花苗を市内の高齢者福祉施設などに無償提供しています。

令和 7 年度は、こまつの杜の「ナチュラルガーデン」での種とりや花植えなど四季の変化を学ぶ取組みを計 7 回程度行い、ＪＲ小松駅東側の道路に整備された「おもてなし花壇」において、11 月に市内の幼稚園児やその家族の方々と花の植込み作業を行いました。また、こまつの杜が主催する花育ワークショップでのサポートを実施しました。

4）屋上緑化

（株）小松製作所からの委託を受け、コマツビル屋上庭園の維持管理と一般公開、専門家の見学受け入れなどを実施し、屋上緑化の先進事例としての情報発信と普及啓発に努めています。

コマツビルの建替えに伴い、屋上庭園のシンボルでもあった八重紅枝垂をはじめとする植物は、可能な限り当会結城農場に仮移植しており、令和 7 年度も引き続き管理・育成に努めました。令和 8 年末に完成予定の新コマツビルの屋上へ今夏頃から復植を開始する予定です。

（３）桜の品種特性や樹勢回復についての研究、桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導

1）自主研究

～桜の品種特性に関する調査研究～

当会結城農場にある桜見本園で収集保存している桜の花の形状等品種特性について、画像のデータ化やホームページ等での情報公開を進め、多様性のある桜に対する世間一般の認識度を高めます。また、‘神代曙’の半八重化、サクラ類てんぐ巣病罹病状況調査に引き続き取り組んでいます。令和 7 年度においては、「桜ミニ図鑑」の一部改定も行いました。

～桜の樹勢回復に関する調査研究～

同じく桜見本園の桜について、樹勢回復に関する試験研究を継続し、全国各地の桜の保全に対する技術力を高めます。

近年、関東地方などを中心に特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が発生しています。令和 7 年度も受託業務等を通じて、また当会結城農場において本害虫の防除を実施しております。本防除を通じて知見や技能を高め、自治体とも連携を深め、啓発活動を行っています。

2）受託研究

～桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導～

桜の老齢樹の樹勢回復に関する調査・研究と樹勢回復方法の立案や技術指導などを地方自治体から委託を受けて行います。

令和 7 年度は、下記の受託案件に関して、地方自治体や関連団体等と連携を取りながら、調査ならびに剪定、病害虫駆除、施肥などの樹勢回復に向けた提言と指導を行いました。

・埼玉県幸手市： 権現堂公園桜堤の保全管理
・長野県須坂市： 臥竜公園の桜樹勢回復
・群馬県藤岡市： 三波川（サクラ）の桜樹勢回復
・山梨県北杜市： 山高神代ザクラ樹勢回復・維持調査
・茨城県利根町： 利根川桜づつみ樹木診断

２．ガバナンス事項（運営体制充実のための取組み）

当会は、職員 16 名の小規模法人ですが、限られた職員体制のもとにおいても適正かつ効率的な法人運営を行うため、当事業年度においては、内部統制の強化、コンプライアンス体制の充実および職員の安全衛生管理等に取り組みました。

当会の理事、監事、評議員につきましては、従前より常務理事 1 名を除き、すべて外部から選任しています。理事会については、当会定款の定めに基づき 2 回（6 月 10 日および 3 月 19 日）開催し、事業報告・会計報告の審議、事業計画・収支予算の審議、代表理事 2 名の職務執行状況の報告等を行い、業務執行および財務状況の適正性の確保に努めました。評議員会については、当会定款の定めに基づき 1 回（6 月 26 日）開催し、理事および監事の選任、貸借対照表および損益計算書ならびにこれらの附属明細書の承認等を行いました。また、理事会および評議員会における公益目的事業の実施状況の説明においては、事業報告書に加えパワーポイント資料を使用し、外部役員にも個別事業の詳細を具体的に理解いただけるよう努めています。

内部統制の面では、業務管理担当者を 1 名増員し、複数人による確認・承認の仕組みを整備しました。また、小規模法人であることを踏まえ、外部専門家の活用として、新たに社会保険労務士法人との業務委託契約を締結し、人事労務・労働法務に関する相談や助言および情報提供を受けられる体制を整備しました。また、規程類の点検・見直しを継続的に行い、当事業年度においては 9 件の改訂を

実施しました。資金運用に関しては、財産運用規程に定める運用方針に基づき、安全性および流動性に配慮した運用を行いました。

コンプライアンス体制の充実に向けては、「行動基準」の職員への配付や「コンプライアンス 5 原則」の事務所内掲示を行い、職員への浸透を図っています。毎月、コンプライアンス事例やミニテストなどを掲載した資料を職員に展開し、啓発活動を行っています。

情報公開の面では、定款、事業報告書及び会計報告書、事業計画書及び収支予算書等を当会ウェブサイトに遅滞なく掲載し、透明性の確保に努めました。

リスク管理や安全衛生の面では、当会結城農場（茨城県結城市）への来訪者や当会の現場作業職員に万が一の事態が発生した場合の対応として、新たに AED 機器を設置するとともに、適切な使用ができるよう職員に対する使用方法の教育を行いました。また、昨今の猛暑対応として、熱中症マニュアルの整備と職員への教育、必要な備品配備を進めました。さらに職員の心身両面の健康維持を図るため、新たに産業医との業務委託契約を締結し、産業医による職場巡視を実施するとともに、健康・安全面における改善点の確認および必要な対策を講じました。

３．後援会員数（令和 8 年 3 月 31 日現在）

法人会員：249 名　　個人会員：1,069 名　　合計：1,318 名

以　上